

防災は地域のコミュニティから

3月20日は福岡市の「市民防災の日」です。2005年の同日に発生した福岡県西方沖地震にちなんで設けられました。ここ数年九州では、地震や風水害、火山の噴火など大規模な自然災害が多発しています。福岡大学工学部の古賀一八教授(建築防災学)に九州の自然災害の特徴や備えについて伺いました。

あらゆる自然災害九州で発生

九州の自然災害の特徴を教えてください。

過去、あらゆる自然災害が発生しています。

台風による風害、集中豪雨による洪水や斜面崩壊、地震、火山の噴火、津波、竜巻などです。

例えば地震。過去、日向灘では約20年おきにマグニチュード(M)7クラスの地震がありました。久留米では1696年から1706年に震度5クラスが3回6以上が2回発生しています。福岡市の警固断層と北九州市の福智山断層は地震が起こる確率がかなり高いと言えます。

いつかは分かりませんが、大規模災害は必ず起こります。覚悟して準備しておく必要があります。

災をはじめ新潟県中越地震、東日本大震災など多くの被災地で鉄筋コンクリート建造物の補修・補強の指導を行ってきた、災害の影響を最小限にとどめるにはどうしたら良いかを常に考えてきました。

今、思うことは専門家(行政、建築設計、施工者など)が意識して、あらかじめ対策を取ることが重要だということです。建築構造物の耐震性だけでは駄目で、家具、外壁、天井、ブロック塀などにも気を配ることが大切です。

一般の方々にとっては、災害時には地域のコミュニティが最も大事です。熊本でも、普段からコミュニケーションが取れている地域やマンションは復興のテンポを速く感じます。

土壌を考えると九州北部豪雨と同じような被害がどこでも発生します。市町村が発行しているハザードマップには危険な箇所が指摘してありますが、そこにお住まいの方は日頃から対策や備えを真剣に考えていただきたいですね。

高齢者や障がいを持つ方々は、自力で避難できない方が多くいます。時間帯によっては、避難を手伝う人がいない場合もあります。このため、自宅ですっきりとしていて助かることが理想だと思いますので、土砂災害や洪水から自宅を守るための対策として、1階は柱だけのピロティ住宅や敷地の盛り土などを勧めたいですね。

福岡大学工学部建築学科 古賀一八教授

1954年生まれ、佐賀県出身。東京理科大学、同大学院修了。同大学助教から大手建設会社勤務などを経て、2013年4月から現職。技術士(建設部門・総合技術監理部門)、1級建築士。日本建築学会、日本コンクリート工学会などに所属。



感じています。

気になるのは、住宅のブロック塀です。熊本地震の際、益城町で258か所のブロック塀を調査しました。鉄筋が入っていないなど「危険」なブロック塀は89.1%あり、地震でそのうち76%が倒壊していました。昨年、福岡市内のある地域の646か所を調査しましたが、益城町を上回る95.2%が「危険」でした。このため、いざ大地震が起こると、屋外を歩くこと自体が危ないと言えます。自宅のブロック塀が倒れ、通りを歩いている人がけがをするという認識が家主側になのが問題です。

広告

企画・制作 読売新聞社広告局



倒壊家屋がおびたしく並ぶ住宅街を歩いて給水所に向かう住民 (2016年4月17日、熊本県益城町で)

——熊本地震の現地調査で感じたことをお聞かせください。

2016年の熊本地震には前震(4月14日)の翌15日から調査に入りました。16日未明、宿泊した大津町の築185年の住宅で震度6強の本震に遭いましたが無事でした。地震対策が取られている家は安全だし、そうでない家は被害を受けていることを実感しました。

熊本以前にも、阪神淡路大震

地域のコミュニティ 災害時に大事

自宅で助かる備え 理想の防災

——昨年の九州北部豪雨の被害をどのように捉えていますか？

私は佐賀県で生まれ育ちましたが、小学生の時に自宅が床上浸水の被害を受けました。九州の

危険なブロック塀 福岡市内に多数

——福岡の人の防災意識をどう感じますか？

福岡市は防災士の育成講座「博多あん(安全)・あん(安心)塾」を独自に立ち上げ、塾の卒業生が「博多あんあんリーダー会」を設立するなど防災意識は高いと



赤谷川周辺に埋まった流木や土砂(2017年7月6日、福岡県朝倉市で)

耐震補強や家具固定 備えの第一歩

——自然災害への備え、災害発生時の行動についてアドバイスを。

福岡市内の一つの校区に住民は約1万人。いざ災害が発生すると、避難所に入れない人が多く発生します。このため、自宅の耐震補強や家具の固定が最優先です。

福岡市が今年2月に発行した、「マンション防災・減災マニュアル」は役に立つと思います。特に、「マンション防災七箇条」はぜひ実行してください。戸建てでも共通して言えますが、「地震保険に加入」「地域で顔の見える関係を作っておく」「マンション管理や地域防災に積極的にかかわる」ことが大事です。大切なのは、災害に関心を持ち、自分のこととして振り返り、できることから実行することです。